

215) サマータイム

わたし普通のOLだけど スタイルだけはちょっと自信よ
タンクトップで街を歩けば 男の子たちふりかえるのよ
サマータイムはわたしの季節 週末ごとに海へドライブ
だからビキニの水着が似合う 夏にわたしを愛してほしい

おんじゆく
御宿あたりの白い砂浜 サングラスしてまっ赤なピアス
光の中で踊っていると サーファーたちが集まってくる
リズムに乗って沖を目指せば 大きな波がわたしを待ってる
だからビキニの水着が似合う 夏にわたしを愛してほしい

たわむ
波と戯れ砂に抱かれて アバンチュールな時間が流れる
ちょっと危ない熱い視線が わたしのことを誘惑してる
寄せてくる波たくみにかわし 風が変わるとやがてわたしの
かげぼうしくん
影法師君のっぽになって 夏の終わりの寂しさが来た

夏が終わって街に戻れば わたし以前のOL暮らし
肌に残った水着の跡が 過ぎた季節を懐かしんでる
ロマンスなんてなかったように またひと夏が過ぎ去ってゆく
赤いビキニの水着の跡に ちょっと寂しい秋風が吹く

赤いビキニの水着の跡に ちょっと寂しい秋風が吹く
だからビキニの水着が似合う 夏にわたしを愛してほしい